

ソロフェスタ・ティつくば 2014

出演者:

五十嵐 滋 (T)
柿沼 芙美子 (Bf1)
梁取 美智雄 (Br)
和田 知子 (S)
鈴木 勝英 (Br)
岩佐 章夫 (Br)
横山 美恵 (Pf)
小嶋 晶子 (S)
浅田 牧子 (Fl)
堀部 一寿 (Br)



特別ゲスト:

横山 和彦 (T)

日時 2014年9月21日(日) 開場13:30 開演14:00

会場 つくば市アルスホール

外部委員 半田 暁 氏(合唱指揮者) 見角 幾代 氏(Saal 194 主宰)
佐久間 和子 氏(声楽家・合唱指揮者)

主催 つくば音楽団体交流協議会 (コンサート委員長 五十嵐 滋)

問い合わせ先 堀部 一寿 (コンサート委員)

電子メール horibe3721@gmail.com F A X 029-852-3721

主催者御あいさつ

ソロフェスタ・コンサート委員長
つくば音楽団体交流協議会前会長
筑波大学名誉教授 五十嵐 滋

皆様こんにちは 本日は、第二回の“ソロ・フェスタ”によろそお出で下さいました。初秋の日曜日の午後
の一時、声楽と器楽のソロをお楽しみください。

この“ソロ・フェスタ”は、21年前から茨城県南地区の有力音楽団体が年一回一堂に会して行われている“ムジカフェスタ・ディつくば”を主催しているつくば音楽団体交流協議会が、さまざまな事情でほぼ合唱だけになって来たその“ムジカフェスタ”を補完するために数年前から計画して来たもので、準備的な試みとして非公式な夏のコンサートを2011年8月（アリスの茶屋）に開いて好評を得たことに基づき、一昨2012年度に公式開催予定でしたが、準備と会場の手当が間に合わなかったため、昨年9月に第1回が開催され、優秀な地域の出演者に恵まれて、お陰様で大成功を収めたものです。

第一回は出場者が費用を拠出して行いましたが、それでは長続きしないので、この第二回からは、聴衆の皆様にもご負担をお願いすることにして、有料に致しましたことをご理解ください。

“ムジカフェスタ”の前身は1970年代半ばの筑波大学創設時から、同大学の学生会館がつくば地域唯一の良好な音楽ホールだったため、地域の芸術文化活動の推進のために、創設期の教員の要望に応じて大学が予算措置を講じた上で全経費を負担して開催していた“学園都市音楽会”です。1980年代半ばになるとノバホールが出来て評判も良くホール運営も軌道に乗ったため、1990年代初頭に第50回を以って役割を果たしたとして終了することになったわけですが、その際、出演諸団体のメンバーとして“学園都市音楽会”に参加するだけでなく、実施についても会館の事務方を助けていた筑波大学の教員・学生OBの有志を中心に、地域で音楽活動を始めて居られた堀部一寿さん（本協議会初代事務局長となられ、第二代会長を十年余り務められた。）等の音楽家のご協力を得て発展的に継承されたのが“ムジカフェスタ”です。

“学園都市音楽会”には、こうした経緯から当然のこととして地域の音楽専門家とアマチュア団体や愛好家が分け隔てなく混じっており、器楽、合唱、ソロの3部門に分かれて年3回開催されてきました。つまり創設以来の理念として、プロ、アマや団体と個人や演奏ジャンルの垣根を超えた地域住民の音楽芸術の発表の場だったわけです。“ムジカフェスタ”が、県南から更に一部県外都市の団体までも加えて、この理念を承継し更に発展させたものであることをご存知のとおりです。“ソロ・フェスタ”は、例年初夏に開催されて居るその“本フェスタ”ともいふべきものと同じ精神で、姉妹イベントとして開催して行きたいと思って居りますので、将来に亘って皆様のご協力を賜りたくお願い致します。

今回から有料にしたのは、単に採算上の問題だけではなく、長年の懸案であった、招待出演者制を実現するという芸術上の目的が有ったためです。プログラムをご覧になればお分かりになる様に、その第1回の今年は、東京学芸大学教授で指導はもとより歌曲とオペラその他の演奏活動もして居られる素晴らしいテノールの横山和彦先生をお招きすることが出来ました。来年度以降は地元で活動して居られる演奏家を特にお招きすることも計画して居ります。勿論今日の演奏者には、第一回同様音大を出られて、教えて居られる方も多数居られます。

今日は、プログラムをもう一度ご覧になれば分かるように、お陰様で、一般出演者の方も昨年に引き続いて皆様に誇れる演奏者を揃えることが出来ました。今年の特徴は男声のソロが多いことです。またストレッチを兼ねて、以前から好評だった、皆様と一緒に歌うプログラムも途中と最後に入れてあり、横山先生にもご指導頂ける曲も用意して有りますから、ごゆるりとご堪能くださいますように。

～プログラム～

第1部

1. 五十嵐 滋 (テノール) 横山 美恵 (ピアノ)
歌曲集「詩人の恋」作品48より
Dichterliebe Op.48
詩 ハイネ 作曲 シューマン
H. Heine - R. Schumann
第8曲「花にして、もし知らば」 Und wüßten's die Blumen, die kleinen
第9曲「あれは笛の音」 Das ist ein Flöten und Geigen
歌劇「アルルの女」より「フェデリーコの嘆き」
《L'Arlensiana》～ Lamento di Federico 作曲 チレア
Cilea
2. 柿沼 美恵子 (リコーダー) 門脇 郁香里 (ピアノ)
リコーダーソナタ ハ長調 Recorder Sonata C-Dur
Larghetto-Allegro-Larghetto-A tempo di Gavotti 作曲 ヘンデル
Handel
3. 梁取 美智雄 (バリトン) 門脇 郁香里 (ピアノ)
アヴェ・マリア Ave Maria 作曲 カッチーニ
G.Caccini
月見草の花 作詞 山川 清 作曲 山本 雅之
合唱組曲「水のいのち」より「雨」 作詞 吉野 喜久雄 作曲 高田 三郎
4. 和田 知子 (ソプラノ) 桑原 香織 (ピアノ)
もし貴方が愛してくれて 作詞 ロッリ 作曲 パリゾッティ(ペルゴレージ)
Se tu m'ami Rolli - Parisotti(Pergolesi)
歌劇「市のジプシーたち」より 「ジプシー女をお望みの方はどなた」
作詞 パロンバ 作曲 パイジエッロ
《Gli Zingarella in Fiera》～ Chi vuol la zingarella G. Palomba - G. Paisiello
歌劇「フィガロの結婚」より 伯爵夫人のアリア「スザンナは遅いのね～楽しい思い出はどこへ」
作曲 モーツァルト
《Le Nozze di Figaro》～ Rezitativ~Dove sono:Aria di Contessa W.A.Mozart
5. 鈴木 勝英 (バリトン) 佐藤 琴絵 (ピアノ)
白鳥の歌 作詞 若山 牧水 作曲 古関 裕而
遠くへ行きたい 作詞 永 六輔 作曲 中村 八大
平城山 作詞 北見 志保子 作曲 平井 康三郎
マイ・ウェイ 作詞 アンカ 訳詞 中島 淳 作曲 ルヴォー
My Way P.Anka - J.Revaux
6. 横山 和彦 (テノール) 横山 美恵 (ピアノ)
ます 作詞 シューバルト 作曲 シューベルト
Die Forelle C. Schubart - F. Schubert
歌曲集「ミルテの花」作品25より
Myrten Op.25
蓮の花 作詞 ハイネ 作曲 シューマン
Die Lotosblume H. Heine - R. Schumann
献呈 作詞 リュッケルト 作曲 シューマン
Widmung F. Ruckert - R. Schumann
君は花のごとく 作詞 ハイネ 作曲 シューマン
Du bist wie eine Blume H. Heine - R. Schumann
7. みんなで歌おう I 堀部 一寿 (指導) 桑原 香織 (ピアノ)
歌劇「美しきパースの娘」より 小さな木の実 作詞 海野 洋司 作曲 ビゼー 編曲 石川 皓也
《La jolie fille de Perth》～ Serenade G. Bizet

8. 岩佐 章夫 (バリトン) 豊田 博子 (ピアノ)

オペラ『小町百年の恋』より

作曲&台本 平井 秀明

閻魔大王のARIA「これぞ地獄の掟なり」

閻魔大王のレチタティーヴォ「地獄の宴」

仙人のARIA「今はとて」

高橋虫麻呂のARIA「男女川」

9. 横山 美恵 (ピアノ)

水の戯れ

Jeux d'eau

作曲 ラベル

M. Ravel

10. 小嶋 晶子 (ソプラノ) 桑原 香織 (ピアノ)

ねむの木の子もり歌

作詞 美智子皇后陛下 作曲 山本 正美

歌劇「こうもり」より アデーレのARIA『公爵様、貴方様のようなお方は』

作曲 シュトラウス

《Fledermaus》～ Mein Herr Marquis Adele

J. Strauss II

11. 浅田 牧子 (フルート) 星野 郁子 (ピアノ)

フルートとピアノのためのソナチネ

作曲 アンリ・デュティユー

Sonatine

Henri Dutilleux

12. 堀部 一寿 (バリトン) 桑原 香織 (ピアノ)

手紙

作詞 荒木 とよひさ 作曲 宮川 彬良

「つぶてソング」より

作詞 和合 亮一 作曲 新実 徳英

フルサト

放射能

許せるか、あなたは

涙が泣いている

夢があるなら

13. 横山 和彦 (テノール) 横山 美恵 (ピアノ)

初恋

作詞 石川 啄木 作曲 越谷 達之介

落葉松

作詞 野上 彰 作曲 小林 秀雄

14. みんなで歌おうⅡ 横山 和彦 (指導) 横山 美恵 (ピアノ)

ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」～エーデルワイス

作詞 ハーマンスタイン 2 世 作曲 ロジャース

《The Sound of Music》～Edelweiss

O. Hammerstein II - R. Rodgers

出演者プロフィール

五十嵐 滋 (いがらししげる)

声楽を竹前ケイ、横山和彦両氏に、アコーディオンを渡辺弘氏に師事。音楽理論を東京藝大旧通信課程で学ぶ。横浜博つくば市デーで「忘れな草」を歌う。近代詩曲の会主宰(合唱団“銀の笛”は10年間ノバホールで定期演奏会を成功させた)。ルネッサンス専門の“もくせい会”と男声合唱団“KOΣMOΣ”(創立メンバー)でも長年歌う。

つくば市文化祭音楽会の役員を多年努め、堀部一寿氏と協力して現行の二日開催を実現させた他、つくば市カピオ・ホール設計市民ワーク主査、つくば音楽団体交流協議会の会則起草(その後会長も)、筑波大学・市民交流音楽会を同大学会館で開催する等、つくば市と近隣地域の音楽活動の交流発展に努める。筑波大学名誉教授。世界 WHO'S WHO 殿堂メンバー、合衆国文化協議会平和賞受賞。著書『演奏を科学する』(ヤマハ・ミュージック・メディア社刊)

柿沼 芙美子 (かきぬまふみこ)

リコーダーを堀部一寿、永田仁の両氏に、声楽を田嶋喜子、堀部一寿の両氏に師事。土浦市やつくば市の音楽会に多数参加。土浦市のボランティアグループ「よしきり会」に所属し、老人福祉施設を定期的に訪問して演奏している。土浦市民合唱団所属。

梁取 美智雄（やなどりみちお）

中学高時代はコーラス部員で県大会に出場、日立製作所中央研究所時代はコーラス部員で産業音楽祭に参加し優秀賞。30歳頃より音楽から遠ざかり定年を迎えた。その後、産総研に省エネの支援指導で入所したのを機に、産総研音楽倶楽部に入部し、ムジカフェスタに参加した。7年前から声楽独唱を南みつ子先生に師事、水戸市の県民文化センターで新春声楽コンサートに6回ほど出場、つくば市民音楽祭に独唱部門でノバホールに一回出場しました。声楽のほかクラシックギターを愛好し、最近はピラロボスの「前奏曲」などの練習をしています。

和田 知子（わだともこ）

母がクラシック音楽好きであったことから、幼少の頃よりクラシック音楽に親しむ。童謡のレコードを数多く与えられ、近所の宴会のたびに歌い、小学校では、上級クラスの音楽の授業で模範歌唱するなど、歌うことはごく自然なことであった。高校時代にそれまで師事していたピアノ教師より声楽の手ほどきを受け音大への進学を勧められたが、同じ芸術でもデザイン、建築へと進路を取り、一時音楽から離れた。社会へ出ても音楽への情熱は冷めることなく、声楽の個人レッスンで音楽を再開。2006年には筑西市誕生記念オペラ「こうもり」でアデーレ役を演じ好評を博す。さらに2007年には明野ミュージカル「ハロー・ドーリー」でマロイ役を演じ高い評価を得た。品のある舞台姿によく響き透き通る歌声で、イタリア、フランスのオペラアリア、イタリア歌曲等を中心に歌っている。

鈴木 勝英（すずきかつひで）

定年退職後、工学部学生時代に合唱団で歌ったことを思い出し、堀部一寿氏が指導する市内のゴスペルグループ「コーロ・リリコELG」に入会、現在に至る。

岩佐 章夫（あわさあきお）

水戸芸術館では、市民オペラ：モーツァルト『フィガロの結婚』にアントニオ役で出演し、クリスマス・プレゼント・コンサートでブラームス『愛の歌』を歌った。オペラ『小町百年の恋』土浦公演に2年連続出演したほか、カール・ミルレッカーのオペレッタ『乞食学生』の士官役、ベートーベン『第九』の合唱およびソリストなど、故畑中良輔氏の棒での男声合唱からはじまった「合唱時々ソリスト」の音楽生活は三十年。声楽を星洋二氏に師事。茨城県民オペラ協会演奏部員。

横山 美恵（よこやまよしえ）

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。松崎玲子、塚越淑子、高橋高子氏に師事。結婚後ウィーンに留学、ワルター・モーア教授の薫陶を受ける。帰国後は子育て、後進指導の傍ら、和彦、和美の伴奏者として数多くの演奏会に出演。現在コールブリランテにて伴奏を務める。

小嶋 晶子（おじまあきこ）

茨城県那珂市出身。聖徳大学人文学部音楽文化学科声楽コース卒業。声楽の基礎から堀部一寿氏、鈴木義弘氏、菅波ひろみ氏、に師事。平成18年度県民コンサート出演。現在、茨城県民オペラ協会演奏部員、ローゼの会会員、守谷市文化協会音楽部会に所属。平成23年度石岡公演、オペラ「小町百年の恋」（平井秀明作曲）にてお松 / 侍女1役でオペラデビュー。施設訪問演奏、学校訪問演奏、サロンコンサート、また歌唱指導も行っている。

浅田 牧子（あさだまきこ）

武蔵野音楽大学器楽科フルート専攻卒業。ザルツブルグ、ボストンでも学ぶ。自宅で教える傍ら、ソロからアンサンブルまで幅広いコンサート活動を行っている。毎年ノバホールで開催し今年20回目になる「グループ響」には初回より出演。クリスマスサロンコンサートも14回行う。1999、2009、2011年、ザール194、アルスホールにてコンサート開催。フルートを植村泰一、青木明、K.H. ツェラー夫妻、M. ゲディギアン（当時ボストンシンフォニー首席）の各氏に師事。

堀部 一寿（ほりべかずとし）

声楽を西義一、沢木和彦、F. アルバネーゼ、B. ダルモンテ、M. アルジェント、松永ちづるの各氏に、リコーダーを吉沢実氏に師事。イタリアのミラノに1年間留学。帰国後、多数のオペラに出演する他、リサイタル活動などを行う。現在、つくば市天久保の音楽教室にてヴォイストレーニング、リコーダー、などの指導をする他、クラシックからポピュラー、ゴスペル、アカペラ、シャンソン、童謡など様々なジャンルの13の合唱団、6つのリコーダーアンサンブルの指導などを行っている。また、音楽教室の隣の「リンパ整体院かえる」にて整体師として多くの方の施術にあたっている。

ゲスト紹介

横山 和彦（よこやまかずひこ）

東京芸術大学音楽学部声楽科卒、同大学院独唱科終了。渡辺高之助、高橋修一両氏に師事。在学中、「芸大メサイヤ」、芸大定期ヴェルディ「レクイエム」にソリストとして出演。1992年文部省の在外研修員として、ウィーンに留学し、ウィーン国立音楽大学オラトリオ、リード科教授のW. モーア氏の下で研鑽を積む。ウィーンにおいてリサイタルを開催し、成功を収める。帰国後に行ったリードアベンドはいずれも好評を博した。日本演奏連盟会員。東京学芸大学教授。今回はつくばの皆様の前で久しぶりに歌わせていただきます。とても楽しみです。

楽曲紹介 ※文責 演奏者本人

「詩人の恋」…シューマンの最高傑作とされる連作歌曲で、全 16 曲の内、7 番 -14 番は失恋を歌って居ます。8 番 小さな花たちもナイチンゲールたちも星たちも、僕の心の深い傷を知って、一緒に泣いて癒したり、励ましの歌を歌ったり、天から降りて来て慰めたりはしてくれない。それを知っているのは僕の心を引き裂いた彼女一人だけなのだ。9 番 あれはフルートとヴァイオリン、トランペットも響いてくる。僕の最愛の人が結婚式の踊りを踊っている。太鼓と笛の音が響き渡る合間で、かわいらしい小さな天使たちがむせび泣き、うめいている。(ピアノは主人公の心と全く違う賑やかな楽隊の演奏を表現しています。)

「フェデリーコの嘆き」…「自分もせめて眠ることが出来れば、この苦しい想いを忘れられるのに」と歌うこのアリアは、テノールの名アリアとして知られている。その哀切に満ちた旋律は、深い喪失によって損なわれたフェデリーコの心の空虚を浮かび上がらせているとされている。

「リコーダーソナタ ハ長調」…ヘンデルは 6 曲のリコーダーソナタを作曲していますが、1712 年頃の作品ではないかと言われています。ヘンデルがまだ 20 代の頃の作品で、その頃イタリアオペラを盛んに作曲していた頃なので、このリコーダーソナタにもイタリアオペラ的な優雅で気品に満ちた旋律が感じられます。

私はどちらかと言えば短調の曲が好きなのですが、今回演奏するハ長調を改めて練習してみると、とてもすがすがしい気分になりました。広い緑の草原をそよ風に吹かれて歩いているような、心地よさを感じました。技的に未熟で、自分の思うような表現が出来ず、もどかしく、悩んでいますが、私なりに楽しんで演奏したいと思っています。

「Ave Maria(カッチーニ)」…非常に有名な曲で、独唱のほかコーラスとしても、いろんな合唱団で歌われています。真の作曲者はカッチーニではなく、ロシアの音楽家である、ヴァヴィロフの作品が原型であるとフリー百科事典には記されています。

「月見草の花」…昭和 24 年に作られた童謡です。小生は、ギター 2 重奏の曲として、最近出会ったのですが、元来は独唱曲があることに気がついて、今回歌うことになりました。古くは、キングレコードの中根庸子、井口小夜子、近藤圭子に歌い継がれてきたヒット曲で、しみじみとした、とてもよい曲です。

「水のいのち～雨」…この合唱曲は、余りにも有名な合唱曲です。聞いていて、とても旋律が良いので、独唱しても悪くないのではと思い、師匠に相談しました。最初は、いままでに独唱したいという人はいないと言われましたが、悪くないかもしれないと再返答があり、歌うことにしました。練習をしてきましたが、合唱曲を独唱すると、ソプラノ・アルト・テナー・バスの各パートを全部一人で駆け抜けるように歌い続けなければなりません。歌っていると、余裕が無いというのが実感ですが、何とかまとめました。

「もし貴方が私を愛してくれて」…イタリア歌曲集の中でペルゴレージ作曲とされているが、実際には歌曲集を編纂したパリゾッティが作曲したと推定されている。「もし貴方が私を愛してくれても、やさしい羊飼いさん、残念ながら私の心は一人のものにはなりません」と歌っている。

「ジプシー女をお望みの方はどなた」…パイジェットは 18 世紀後半イタリアでもっとも人気の高いオペラ作曲家であった。「市のジプシーたち」のオペラ・ブッファが上演されることはほとんどなくなってしまったが、この「ジプシー女をお望みの方はどなた」は、今でもよく歌われている。

「スザンナは遅いのね～楽しい思い出はどこへ」…「フィガロの結婚」はモーツァルトの人気オペラで頻りに上演されている。フランスの劇作家ボーマルシェの戯曲 3 部作を基に作られた作品。1 番目の物語「セビリヤの理髪師」でめでたく結ばれた伯爵と伯爵夫人。2 番目の物語である「フィガロの結婚」の中で、伯爵夫人は伯爵の浮気に悩まされ、侍女のスザンナ、伯爵の召使のフィガロと共に一芝居打って、伯爵を懲らしめる。このアリアは、伯爵夫人が「夫の愛情を取り戻すために、侍女の助けまで借りるようになってしまった。甘い美しい思い出はどこへ行ってしまったのか、けれども私の愛が変わらなければ、あの情け知らずの心が変わるかもしれない」と歌っている。

「白鳥の歌」…昭和 21 年 NHK ラジオの連続放送劇「音楽五人男」の挿入歌。20 代の若山牧水の歌 3 首からなるもので、心の奥深くにすむ孤独さを想いながら、歌います。

「遠くへ行きたい」…昭和 37 年 NHK テレビのミュージカル番組「夢で逢いましょう」の挿入歌。

「平城山」…大正時代に歌人北見志保子が詠んだ歌2首に、昭和10年に曲がつけられた。平城山は古都(奈良)の北に連なる小高い丘の総称とのことで、何れも女性が遠く離れた地にいる男性に想いを馳せる歌です。

「My Way」…晩年に、己の歩んだ生き様を振り返った歌です。

「ます」…清流に泳ぐ鱒と、それを狙う漁師、それを見守る詩人のお話です。

「献上」「蓮の花」「君は花のごとく」…シューマンの歌曲集「ミルテの花」の中にある曲です。「献上」は恋人を君は僕の魂、君はぼくの喜びと讃え、「蓮の花」では月に恋をする蓮がその届かぬ恋を嘆き、「君は花のごとく」では恋人の清廉な美しさを花のようだと言っています。シューマンの歌曲は妻クララとの恋が成就したころに書かれ、いずれからもクララに対するシューマンの愛情が見え隠れしています。

「これぞ地獄の掟なり」「地獄の宴」「今はとて」「男女川」…オペラ『小町百年の恋』は、佐賀純一氏(土浦市在住)の著作『筑波山愛ものがたり』を原作とした平井秀明氏による全3幕のオペラで2008年ノバホールにて初演(第23回国民文化祭)。閻魔大王(Baritone or Bass)のアリア「これぞ地獄の掟なり」とレチタティーヴォ「地獄の宴」は平井氏の作詞で、百夜通いで無念の死を遂げた深草少将、彼の怨念が乗り移った高橋虫麻呂が地獄の裁きを受ける第2幕の一場面。仙人(Baritone)のアリア「今はとて」(第2幕)では「古今和歌集」小野小町の短歌と小野貞樹の返歌に、高橋虫麻呂(Tenor)のアリア「男女川」(第1幕)では「小倉百人一首」陽成院の短歌と「万葉集」常陸国の東歌に曲がつく。

「水の戯れ」…1901年作曲のラヴェル最初期のピアノ曲。曲頭に「水にくすぐられてほほえむ川の神」と、詩人アンリ・ド・レニエによる詩の一節が掲げられている。印象主義、標題音楽的ではあるが、ソナタ形式への適用を捨ててはいない。恩師フォーレへの献上。

「ねむの木の子もり歌」…皇后陛下が聖心女子学院高等科在学中に作詞された曲。陛下は海外公務などで赤坂東宮御所を何日も空ける時はこの曲を弾き語りし、ハミングで録音したテープを託してご出立されたそうです。ちなみに私の娘もこの曲を歌ってあげると泣き止み、ご機嫌になってくれます。

「公爵様、貴方様のようなお方は」…ある日、アイゼンシュタイン邸の女中として働くアデーレはロザリンデ夫人のドレスを勝手に拝借し、仮面舞踏会へこっそり出掛けて行きます。そこにいるはずのないアイゼンシュタイン公爵に出くわし「我が家の女中に似ている」と大勢の前で言われ、アデーレは「こんなにもしなやかな手、話し方、身のこなし、よく見て!こんな女中がどこにいるの!? おかしな方ね! あっはっは!」と笑い公爵は面目をつぶされます。この曲はワルツのリズムに乗って、笑い声をイメージさせるようなコロラトゥーラがとても魅力的です。

「フルートとピアノのためのソナチネ」…フランスの作曲家、アンリ・デュティユー(1916—2013)は、ラヴェル、ドビュッシーらの影響を受けつつも独自の道を歩み、合唱作品でも有名な三善晃にも大きな影響を与えた。2007年、サイトウキネンフェスティバルで、「時間、大時計」が小澤征爾の指揮で初演されてもいる。今日演奏する「ソナチネ」は、長寿ではあったが作品数の少ないデュティユーの初期(1943年)のもので、フルート吹きには貴重なレパートリーである。全体が切れ目なく続く三部構成で、メロディアスな8分の7拍子の「アレグレット」に始まり、瞑想的な、短い「アンダンテ」を経て、躍動感に満ちた「アニメ」へと続く。曲全体に、幅広い音域を行き来する旋律、ピアノとのハーモニーに色彩感が溢れる。

「手紙」…NHKの「今夜は見せませ」にて荒木とよひさの夫人である神野美伽が歌い大反響を呼んだ曲で、神野さんの他、元NHKの歌のお姉さん岡崎裕美、米良美一らが歌っている。

「フルサト」「放射能」「許せるか、あなたは」「涙が泣いている」「夢があるなら」…福島在住の詩人和合亮一は、東日本大震災で自らも被災し、現場からtwitterで「詩の礫」を発表し続け注目を浴びた。その詩に感銘を受けた作曲家の新実徳英が、その詩に12曲からなる「つぶてソング」として曲をつけた。震災当日、和合氏は福島県の高校で入試の合否判定会議中であつたそうだ。

「初恋」「落葉松」…日本歌曲については有名な2曲ですので、どうぞお聞きくださいますように。